

2020年7月21日

日興アセットマネジメント株式会社



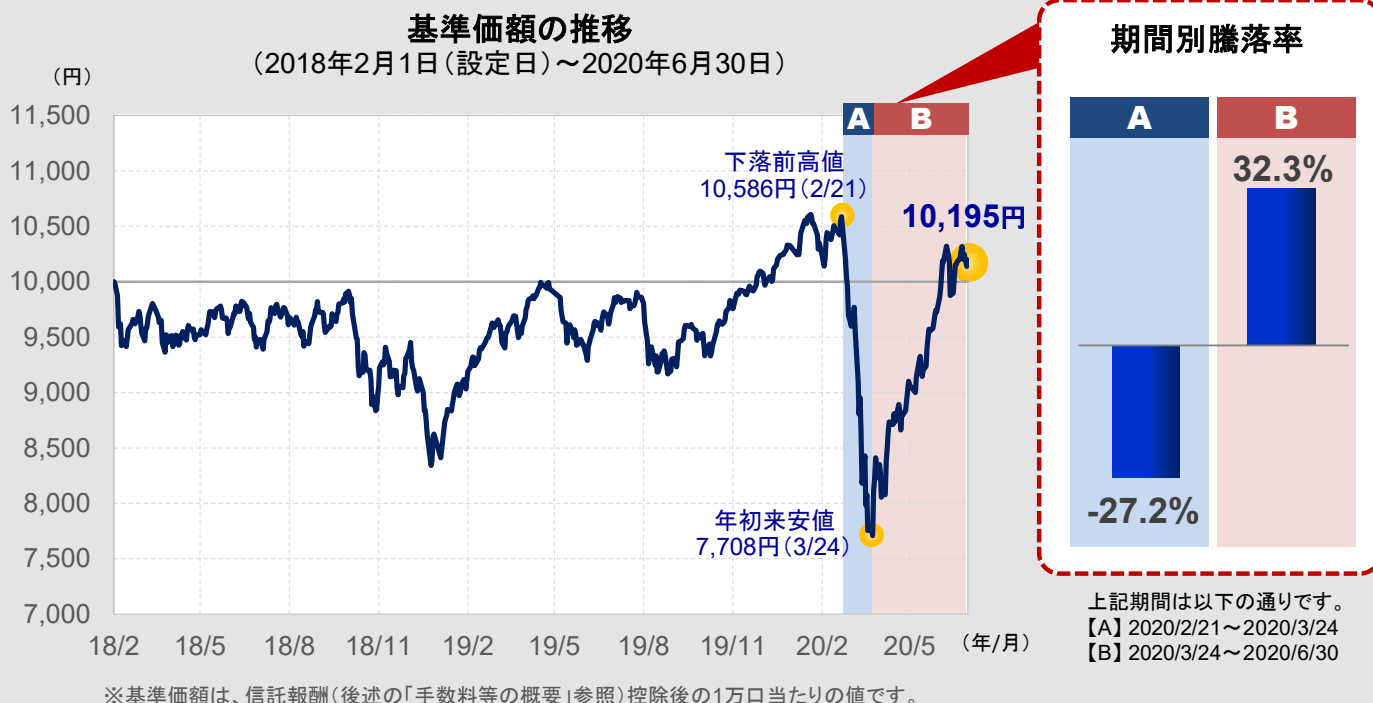
グローバル・メガピース

コロナショック後、基準価額は力強く反発 ～ウィズ/アフターコロナへ期待高まる2つの戦略がけん引～

「グローバル・メガピース」の基準価額は、2月下旬の市場急落後の反発局面において、力強い回復をみせています。この背景には、当ファンドがバランスファンドでありながら、一般的なりスク分散とは異なる視点で資産を組み合わせていることに寄与する部分が大いと考えられます。

本資料では、これまでの運用状況とともに、コロナ禍で今後さらなる注目が期待される2つの株式戦略(グローバル・ロボティクス戦略、グローバル・フィンテック戦略)について、ご説明いたします。

急落後、力強い反発をみせる「グローバル・メガピース」



※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

本資料では、各戦略を右記のように表記することがあります。

- グローバル・ロボティクス戦略: ロボティクス
- ジャパン・グローイング・ベンチャー戦略: 日本グロベン
- 新興国リード・ストック戦略: 新興国リード
- グローバル・フィンテック戦略: フィンテック
- USグローイング・ベンチャー戦略: USグロベン
- グローバル・インカム戦略: インカム債券

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

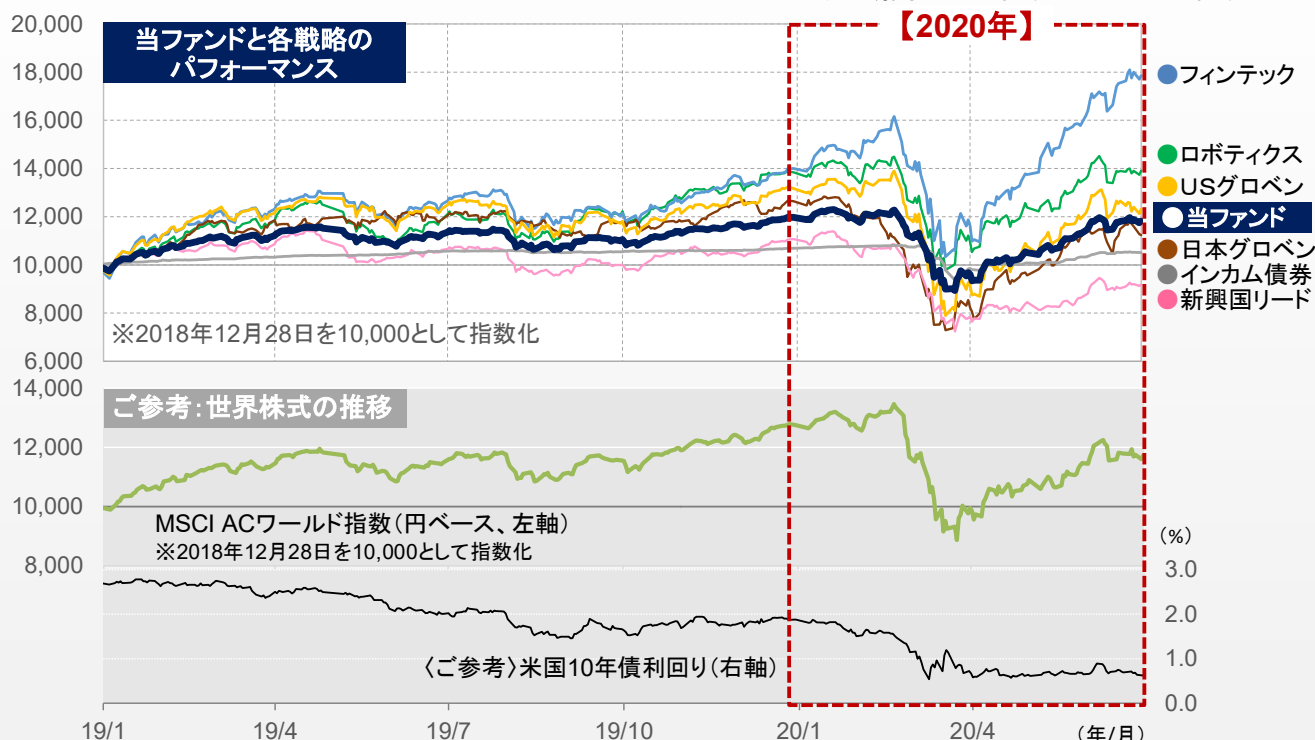
各戦略の状況について

目を見張る強さをみせた「イノベーション株式」

- 当ファンドは、「イノベーション株式」「アーリー・ステージ株式」「インカム債券」の3つのテーマに基づき、複数の戦略に投資を行なっています。
- 当ファンドと各戦略のパフォーマンスを見ると、2月の市場急落時には、世界的にほとんどの資産が下落したことから、当ファンドも大きな下落に見舞われたものの、その後は、「イノベーション株式」の2つの戦略(フィンテック、ロボティクス)が大きく反発し、基準価額の上昇をけん引していることが分かります。

ウィズ/アフターコロナで恩恵が期待される「フィンテック」「ロボティクス」の上昇が顕著に

グラフ期間：2019年1月4日～2020年6月30日



3月にかけての

下落局面では、債券まで大きく下落する展開に

- ✓ 新型コロナウイルスの感染拡大懸念が強まった2月～3月にかけて、市場が急落するなか、株式戦略の中では、流動性が相対的に低い「日本グローバル」「USグローバル」「新興国リート」の売り圧力が強まりました。
- ✓ 3月中旬にかけては、世界経済への停滞懸念などから、投資家が現金化を急ぐ動きが加速し、債券利回りが上昇するとともに、「インカム債券」も下落しました。

3月下旬以降の

上昇局面では、テクノロジー関連株がけん引

- ✓ 経済活動の再開に向けた動きから、投資家に安心感が広がると、すべての戦略が反発に転じました。
- ✓ コロナ禍での新たな生活様式に向けた取り組みに伴う、ロボティクスやフィンテックへの需要拡大ならびに、関連銘柄の業績改善への期待感などから、両戦略が大きく上昇しました。

■ 当ファンド：信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の基準価額 ■ 各戦略のパフォーマンス：投資対象である投資信託証券の基準価額
■ 世界株式：当ファンドの基準価額の算出方法に準じ、前営業日の株価に当該営業日の為替レートに乗じて、日興アセットマネジメントが算出。
なお、上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。 信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

当ファンドの状況について

株式戦略の反発力の強さが、基準価額の上昇に寄与

- 当ファンドは、「**株式中心の積極成長型バランスファンド**」として、5つの株式戦略では、社会の構造変化（メガトレンド）に着目し、**中長期的に成長余地の大きいテーマを選定**しています。そのため、**価格変動が大きくなる傾向にあり、「クッション役」として債券戦略を組み合わせ、リスク低減を図っています。**
- 基準価額騰落の要因分解を見ると、各株式戦略は、市場下落局面での値下がり幅は大きかったものの、その後の反発では、イノベーション株式を中心に、しっかり基準価額にプラス寄与したことが分かります。

資産成長を重視し、株式中心ながら、債券でリスク低減を図る資産配分

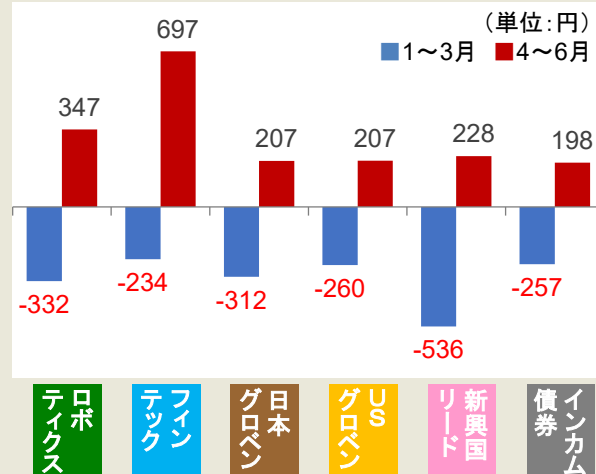
＜当ファンドの資産構成比率＞
(2020年6月末)

①イノベーション株式		38.1%
	グローバル・ロボティクス戦略	18.3%
	グローバル・フィンテック戦略	19.7%
②アーリー・ステージ株式		30.1%
先進国	ジャパン・グローイング・ベンチャー戦略	8.3%
	USグローイング・ベンチャー戦略	8.2%
新興国	新興国リード・ストック戦略	13.6%
③インカム債券		31.2%
	グローバル・インカム戦略	31.2%
その他		0.6%

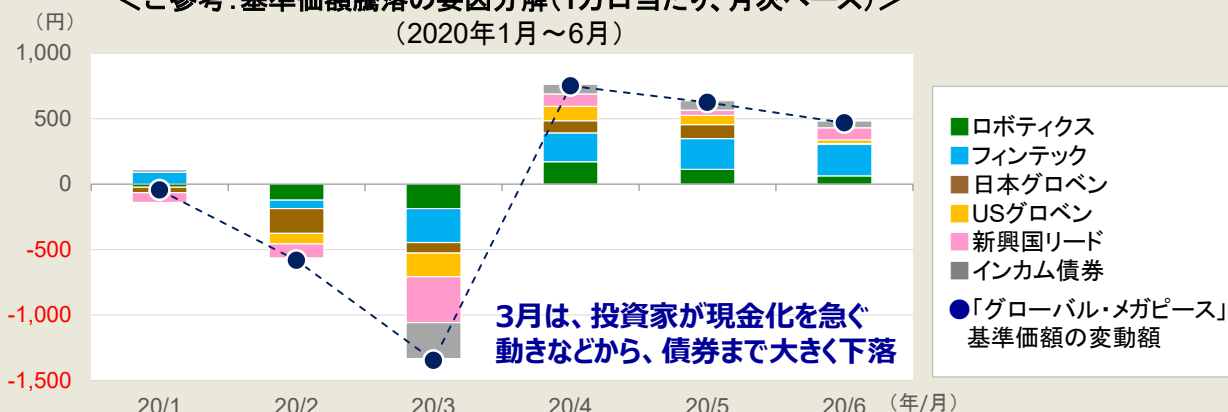
※資産構成比率は当ファンドの純資産総額比です。

各投資戦略は価格変動が大きい分、反発力の強さで基準価額の上昇に貢献

＜基準価額騰落の要因分解(1万口当たり)＞
(2020年1月～6月)



＜ご参考：基準価額騰落の要因分解(1万口当たり、月次ベース)＞
(2020年1月～6月)



※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ピックアップ戦略: グローバル・フィンテック戦略

コロナ禍を契機に、拡大が期待されるフィンテック

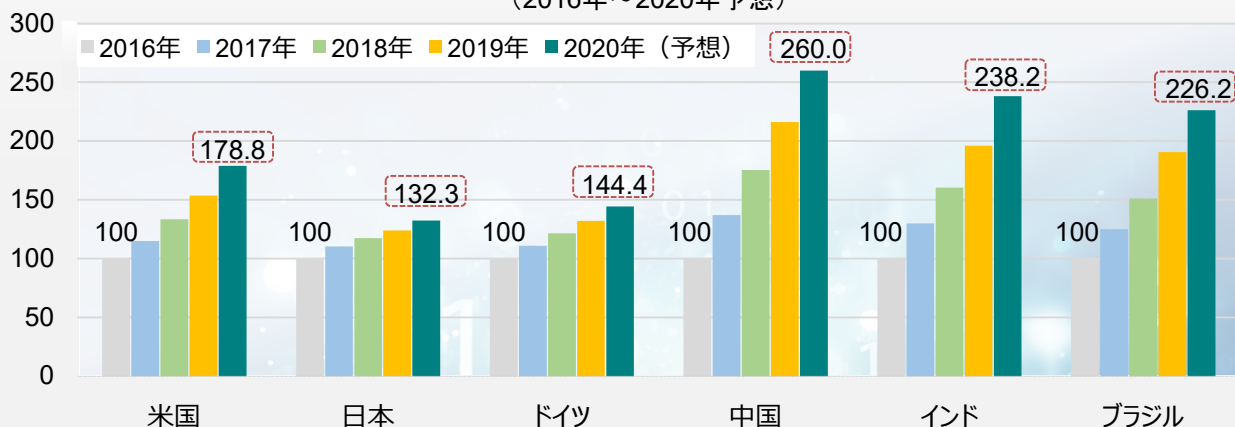
- スマートフォンの急速な普及やテクノロジーの進歩により、既存の金融機関にはない「新たな金融サービス」であるフィンテックは、「お金の革命」として世界的に大きく拡大してきました。
- そして足元で、新型コロナウイルスの感染拡大により、世界中で外出の自粛やソーシャルディスタンス(社会的距離)の確保が求められるなど、日常生活に様々な変化が生じるなか、**フィンテック関連銘柄は、オンライン金融サービスや電子決済などの需要拡大を通じて、さらなる発展が期待されています。**

コロナショックによる社会変容と、期待されるイノベーションの進展



※上記はイメージです

【ご参考】増加する各国のデジタルコマース決済額 (2016年～2020年予想)



(出所) ユーロモニター

※デジタルコマース決済額: モバイルやオンラインなど、電子決済による金額

※2016年の各国数値(現地通貨ベース)を100とし指数化、2020年はユーロモニター予想値

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

<銘柄名>

<国名・業種>

<概要>

組入銘柄のご紹介

スクエア

米国
ソフトウェア・サービス

スマートフォンやタブレットでの小型決済リーダーを提供。初期投資が少なく、小規模事業者などで利用急増。

アップル

米国
テクノロジー・ハードウェア

Apple Pay (アップルペイ) を通じて、iPhone決済サービスを提供。指紋や顔での認証が可能。

ペイパル ・ホールディングス

米国
ソフトウェア・サービス

世界で利用されるオンライン決済サービスの老舗。カード情報を知らせず、アプリ決済や国際送金などが可能。

※上記は、2020年6月末時点において、各戦略で投資する投資信託証券の組入上位10銘柄よりご紹介しています。上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ピックアップ戦略:グローバル・ロボティクス戦略

ニューノーマルに向けた動きは、「ロボティクス」に追い風

- ロボティクス*はこれまで、少子高齢化や労働コストの増大など世界的課題である労働力不足を、「自動化」によって克服するという観点から、息の長い成長テーマとして注目されてきました。
- そして今、コロナ禍で、**人を介在させない生産体制やサプライチェーン(物流網)の停滞改善、非接触によるサービス提供などが急務となるなか、ロボティクス関連技術が様々な場面で求められる**と考えられます。

*ロボティクスとは、ロボットだけを指すのではなく、「IoT(モノのインターネット)」や「AI(人工知能)」などの技術を活用した産業やサービスの総称のことをいいます。

「人を介さない、非接触」への動きとともに、ロボティクス技術の活用が加速

コロナ禍で急速に広がった、ロボティクス技術活用の動き

オンライン化

(例)
テレワークや
オンライン学習



データ化

印

(例)
電子ハンコ・サイン
や紙媒体の電子化



コロナ後
は

ニューノーマル 経済の「新常態」に向け、幅広い産業で活用が見込まれる ロボティクス技術

工場

人がいなくても稼働でき、
生産が続けられるように

建設・土木

遠隔操作や自動操作により
無人や少人数で作業が可能に

<ロボティクス技術の注目分野>

遠隔監視・遠隔操作
(自動化)

データ活用

IoT

医療

オンライン診療や
遠隔治療など

物流や小売

eコマースの普及加速、
在庫・倉庫管理の自動化など

※上記はすべて例であり、写真はイメージです

<銘柄名>

<国名・業種>

<概要>

キーエンス

日本
情報技術

FA(ファクトリーオートメーション)をはじめとするロボティクス関連事業で不可欠な「センサー」を主力とするメーカー。

インテュイティブ・
サージカル

米国
ヘルスケア

ロボット手術システムメーカー世界最大手で、市場をほぼ独占。外科手術ロボット「da Vinci(ダ・ビンチ)」が有名。

アルファベット

米国
コミュニケーション・サービス

ウェブ検索大手「Google」の持ち株会社。次の事業テーマとして、AIやロボット、自動運転車など「ロボティクス」に着目。

組入銘柄の ご紹介

※上記は、2020年6月末時点において、各戦略で投資する投資信託証券の組入上位10銘柄よりご紹介しています。上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1** ^{メガトレンド} 社会の構造変化を捉える2つの株式テーマに着目し、収益の獲得をめざします。
- 2** 2つの株式テーマに債券を加え、インカム収益の獲得をめざします。
- 3** 各戦略に基づく投資は、日興アセットマネジメントが厳選したファンド（投資信託証券）を通じて行ないます。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込みに際しての留意事項

リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様へ帰属します。

なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式および債券などを実質的な投資対象としますので、株式および債券などの価格の下落や、株式および債券などの発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】
【カントリー・リスク】【デリバティブリスク】【未上場株式などの組入リスク】
【延長リスク／期限前償還リスク】【期限前償還に伴う再投資リスク】

※ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

※ ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・メガピース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

7/8

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
投資顧問会社	日興アセットマネジメントアジアリミテッド(投資助言) ビムコジャパンリミテッド
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ] www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第37号	○			
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	

(資料作成日現在、50音順)

